

東日本大震災から9年が経過しました。中央大学研究開発機構、理工学部人間総合理工学科では、学生と教員が共に学術研究を深める中で宮城県岩沼市の「復興まちづくり」と「多重防御の要となる海岸林の育成」に取り組んできました。9年間の歩みを御紹介します。

**1. 復興まちづくり：緑の文化を生かした心を繋ぐ復興**  
**(第40回緑の都市賞 国土交通大臣賞受賞、玉浦西まちづくり協議会協力：中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室)**

2011年3月11日 東日本大震災発生。直後の津波により、宮城県岩沼市沿岸部の6集落  
 相野釜・藤曾根・二ノ倉・長谷釜・蒲崎・新浜が、壊滅。死者186名、行方不明者1名  
 2011年11月～ 「復興は被災者が主役、困難でも被災者が考える」を基本とし、まちづくりを考えるワークショップを支援。延べ30回以上。多くの学生が参加。



宮城県岩沼市に押し寄せる津波



6集落が揃って集団移転。  
 コンパクト・シティの実現



話し合いを重ねて、住民・行政・大学・NOP等多くの人々の協力で誕生した「玉浦西のまち」。旧集落のコミュニティと、人の絆を何よりも尊重することを合意し、新しい暮らしが始まっている。中央部にコミュニティをつなぐ、貞山運河を偲ばせる緑道と4つの公園が配置された。伝統的なコミュニティの森（居久根：いぐね）が、まち全体を包んでいる。300世帯、1000人の、新しいまちが誕生している。

2014年1月18日～ 玉浦西まちづくり協議会の発足。様ざまの支援活動を展開



お神輿が流されたため、こども神輿の製作を支援 (2015年7月14日)



ワークショップ支援：中央大学理工学部  
人間総合理工学科1期生 2016年6月4日)

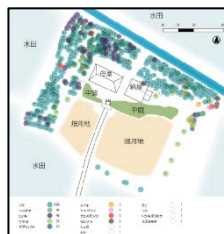


美しいまちをつくる (大樹公園 2014年7月)



一年後の大樹公園 (2015年7月)

2012年～2020年 伝統的景観「居久根」を創る。詳細な学術調査を実施。



No.	樹種	樹高	幹周
1	クロマツ	7	23
2	クロマツ	7	31
3	クロマツ	6	20.5
4	アカメガシワ	10	14.5
5	ヤマザクラ	6	16
6	シロダモ	6	19.5
7	ケヤキ	12	24
8	シロダモ	6	13
9	ヤブツバキ	4	7.5
10	ヤブツバキ	4	5.5
11	ヤマザクラ	6	10.5
12	スギ	13	38.5
13	エノキ	6	14
14	ヤブツバキ	4	6.5
15	エノキ	5	5.5
16	ケヤキ	6	10.5
17	ケヤキ	6	8.5
18	ヤブツバキ	6	9

津波により壊滅した居久根

残存した居久根の毎木調査を実施。これを踏まえて都市緑化機構主催の「環境デザイン賞」に応募。整備資金を獲得。(中央大学研究開発機構)



2014年6月14日 居久根計画地



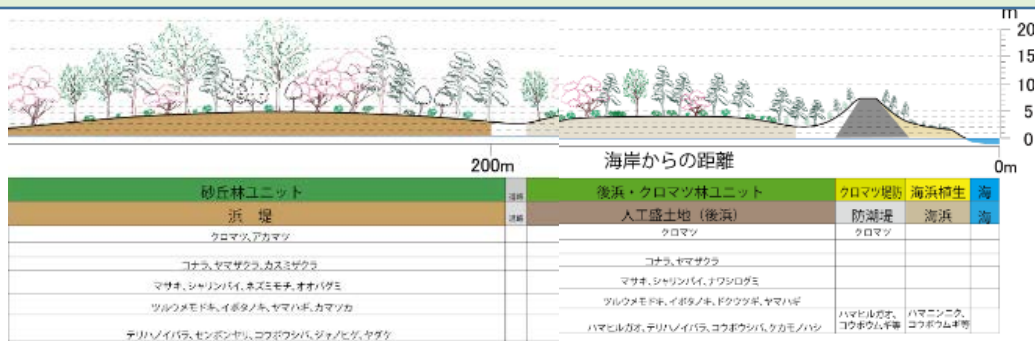
2020年10月26日 居久根 (同じエリア)



## 2. 沿岸域に多重防御の要となる森を創る

2011年8月～2020年9月 津波により残存した海岸林の生態調査の実施

学術会議より、「いのちを守る安全な沿岸域の再生に関わる海岸林の再生に向けた提言」として発信。<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t140423.pdf>



2016年4月～2020年10月 ニッセイ緑の財団、玉浦西まちづくり協議会、中央大学理工学部人間総合理工学科、中央大学研究開発機構が協働で「希望の環」（海岸林）の森づくりを続けている。（2020年9月 農林水産大臣賞受賞）

<http://www.green.or.jp/news/news-award/>



希望の環（2016年 4月 森づくり開始）

希望の環（2019年 9月）



2016年 4月 中央大学理工学部人間総合理工学科第一期生。復興の現場での学術調査・復興まちづくり・森づくりを通して、多くを学ぶ。国家公務員・政令指定都市（東京都・横浜市他）・東京23区職員、民間企業等のまちづくりの現場で活躍中。

森づくりは、引き継がれています。 一本一本、心を込めて、植えました。



植樹式で挨拶をする、中央大学の学生

2019年 6月9日



東日本大震災からの復興と今後の国土保全については、次の学術図書を、御覧ください。

石川幹子 (2020), 『グリーンインフラ 地球環境の持続的維持に向けて』

中央大学出版部

第七章:「コミュニティの再生とグリーンインフラ」, pp. 161—182.

第八章:「国土保全とグリーンインフラ」, pp. 183-208.